

## 子どもをお客さんにしない！ — 地域教育力を活かし、地域に貢献するCS — 荒尾市立荒尾第一小学校

本校は、平成25年4月からコミュニティ・スクール（CS）をスタートしました。学校運営協議会では、子ども達や学校の抱える様々な問題に対し熟議を重ね、「子ども達の学びにつながる活動」に対し応援を頂いています。この応援に対し、学校としては「貢献」をキーワードとして、現在「地域学校協働活動」を展開しています。平成28年度は、本校の学校運営協議会が、文部科学大臣より表彰を受けました。地域と学校、子ども達、保護者、地域住民が、より強固な「Win Win」の関係構築を目指して、活動拡充を模索しています。

### 参画の頂点 「音と光の祭典」（6年）

一小校区元気づくり委員会が主催する地域の一大イベント「音と光の祭典」に6年生が「参画」しています。子ども達をお客さんとして「参加」させるのではなく、企画段階から「参画」させ、地域と学校、子ども達が「協働」でイベントを盛り上げています。「参画意識」をもたせたことにより、「主体的な判断や行動」、当事者としての「対話」が生まれました。これは子ども達の自己有用感を高めただけでなく、「地域学校協働活動」による貢献に手応えを感じさせることができました。更に、地域住民との関わりの中で社会性も身に付いてきました。活動後の子ども達の感想の中には、「地域住民との交流の重要性」に触れるものが多く、この取組が、故郷への愛情を育むことにもつながっています。



【地域のために裏方として作業に取り組む6年生】

### 貢献活動の模索 「有明海とふれ合おう」（4年）



【校区の海岸で漂着物調査をする4年生】

4年生は総合的な学習「有明海とふれ合おう」で、三池海上保安部と連携して、校区にある海岸の「漂着物調査」を行っています。海岸のごみの一部が自分達の地域から出ていることに気付いた子ども達は、学校運営協議会や地区協議会に呼びかけ、地域との協働による清掃活動を展開しました。学びを地域との協働活動に発展させ、貢献できたという充実感を味わわせることができた取組です。子ども達の課題意識も高く、更なる拡充を期待しているところです。

### 今後の展望 「中学校区への展開と未来の荒尾市を夢見て」

子ども達の姿が地域から認められ、5年生は「地域の文化祭運営」に参加協力し、3年生は「地域への感謝を発信する取組」を実施、2年生は「地域探検」を「地域学校協働活動」へと発展させました。最終的には、1年生から6年生までの取組を系統化していきます。更に、地域貢献活動の経験を小学校段階から中学校段階に引き継ぐことを考えています。経験の積み重ねが、地域に貢献する大人への成長につながるからです。すでに荒尾海陽中学校は、熊本版CSを導入し、取組を模索しています。進学していく子ども達の小学校での経験が生かされ、中学生としての自主性や行動力のもとで、より密度の濃い活動に深化していくのではないかと期待しています。そうならば、未来の私たちの荒尾市は、地域協働型の理想的なコミュニティになることでしょう。